

昭和 15 年 土 木 學 會

鐵筋コンクリート標準示方書

解 說

昭和 15 年 3 月

土 木 學 會

昭和 15 年 土 木 學 會

鐵筋コンクリート標準示方書

解 說

發 行 日	4/4 3/17 日
番 号 第	5701 号
社 團 法 人	土 木 學 會
附 屬	土 木 圖 書 館

昭和 15 年 3 月

土 木 學 會

序

昭和6年土木學會鐵筋コンクリート標準示方書が制定されて以來、鐵筋コンクリートの設計及び施工の進歩發達により、其の内容に改正を必要とするに到り、昭和11年一部の改訂を行ひ、引續き内容一般に關し調査研究を進め、今回其の改訂を行ふに至つた。従つて、本解説も示方書に準じ内容全般に亘り改正する必要を生じ、本示方書の各條に就いて其の立案の精神を解説して本示方書の實施に便し、併せて將來本示方書の改訂に資するため、委員長之を起草し松村、内山兩委員之を閲讀し、本解説を發表するに至つた。

昭和15年3月

土木學會コンクリート調査委員會

委員長 工學博士 吉田 徳次郎

土木學會

鐵筋コンクリート標準示方書解説

目 次

第 1 章	總 則	(1)
第 1 條	適用の範圍	(1)
第 2 章	定 義	(1)
第 2 條	術 語	(1)
第 3 條	記 號	(6)
第 3 章	コンクリートの品質	(8)
第 4 條	強 度	(8)
第 5 條	壓縮強度試験	(9)
第 4 章	材 料	(9)
第 6 條	總 則	(9)
第 1 節	セメント	(9)
第 7 條	ポルトランドセメント及び高爐セメント	(9)
第 2 節	細 骨 材	(10)
第 8 條	總 則	(10)
第 9 條	粒 度	(10)
第 10 條	細骨材に於ける有機不純物	(11)
第 11 條	特別の場合	(11)
第 3 節	粗 骨 材	(12)
第 12 條	總 則	(12)
第 13 條	粒 度	(13)
第 14 條	特別の場合	(14)
第 4 節	水	(14)
第 15 條	總 則	(14)
第 16 條	海 水	(15)
第 5 節	鐵 筋	(15)
第 17 條	材 質	(15)
第 18 條	寸法及び斷面積	(16)
第 6 節	材料の貯藏	(16)
第 19 條	セメントの貯藏	(16)
第 20 條	骨材の貯藏	(17)
第 21 條	鐵筋の貯藏	(18)
第 5 章	配合及び水量	(18)

	第 22 條	總 則	(18)
	第 23 條	配合及び水量の表はし方	(19)
	第 24 條	セメントの最小使用量	(21)
	第 25 條	セメント水重量比又は水セメント重量比	(22)
	第 26 條	ウオーカビリチー	(24)
第 6 章		混 合	(25)
	第 27 條	材料の計量	(25)
	第 28 條	機械練り	(26)
	第 29 條	手練り	(27)
	第 30 條	練返し	(27)
第 7 章		コンクリート打ち及び養生	(28)
第 1 節		コンクリート打ち	(28)
	第 31 條	準 備	(28)
	第 32 條	取 扱 ひ	(29)
	第 33 條	樋 卸 し	(31)
	第 34 條	締 固 め	(32)
	第 35 條	打 繼 ぎ	(34)
	第 36 條	寒中コンクリートの施工	(34)
第 2 節		養 生	(36)
	第 37 條	養 生	(36)
第 3 節		繼 目	(38)
	第 38 條	總 則	(38)
	第 39 條	打 繼 目	(38)
	第 40 條	柱に於ける打繼目	(39)
	第 41 條	床組に於ける打繼目	(39)
	第 42 條	アーチに於ける打繼目	(40)
	第 43 條	伸縮繼目	(40)
	第 44 條	滑面繼目	(41)
	第 45 條	水密繼目	(41)
第 8 章		鐵 筋 工	(41)
	第 46 條	鐵筋の加工	(41)
	第 47 條	鐵筋の組立	(42)
	第 48 條	鐵筋の継手	(44)
第 9 章		型 枠	(45)
	第 49 條	總 則	(45)
	第 50 條	堰 板	(46)
	第 51 條	型枠及び支保工	(47)
	第 52 條	組 立	(47)
	第 53 條	面 取 り	(48)

	第 54 條	塗 布	(48)
	第 55 條	一時的開口	(49)
	第 56 條	型枠の取外し	(49)
第 10 章	被 り		(51)
	第 57 條	普通の場合	(51)
	第 58 條	耐火構造の場合	(52)
	第 59 條	海中に於ける場合	(53)
第 11 章	水密を要する鉄筋コンクリート		(53)
	第 60 條	總 則	(53)
	第 61 條	防水剤の混和	(53)
第 12 章	海水の作用を受くる鉄筋コンクリート		(54)
	第 62 條	總 則	(54)
	第 63 條	配 合	(54)
	第 64 條	混 和 材	(54)
	第 65 條	コンクリート打ち	(55)
	第 66 條	鉄筋及びコンクリートの保護	(55)
第 13 章	表面仕上げ		(56)
	第 67 條	表面仕上げ	(56)
第 14 章	試 験		(58)
	第 68 條	現場試験	(58)
	第 69 條	載荷試験	(59)
第 15 章	荷重及び温度変化		(60)
	第 70 條	静荷重及び動荷重	(60)
	第 71 條	温度変化及び硬化収縮	(61)
第 16 章	計算上の假定		(63)
	第 72 條	應力の計算	(63)
	第 73 條	ヤング係数	(65)
	第 74 條	集中荷重の分布	(66)
第 17 章	許容應力度		(68)
	第 75 條	コンクリートの許容應力度	(68)
	第 76 條	鉄筋の許容應力度	(72)
	第 77 條	地震力を考慮したる場合の許容應力度	(75)
第 18 章	設計細目		(75)
	第 78 條	設計細目	(75)
第 19 章	版及び梁		(76)
	第 1 節	設計細目	(76)
	第 79 條	版	(76)
	第 80 條	矩形梁及び丁形梁	(78)
	第 81 條	獨立せる梁	(81)

第 2 節	外力に因る曲げモーメント及び剪断力	(82)
第 82 條	版のスパン	(83)
第 83 條	梁のスパン	(83)
第 84 條	1 方向に主鉄筋を有する連続版の曲げモーメント及び剪断力	(84)
第 85 條	2 方向に主鉄筋を有する版の曲げモーメント及び剪断力	(87)
第 86 條	連続梁の曲げモーメント及び剪断力	(89)
第 87 條	版及び梁の反力	(91)
第 3 節	應 力	(91)
第 88 條	丁形梁の突縁	(91)
第 89 條	ハンチ	(94)
第 90 條	剪断應力度	(95)
第 91 條	附着應力度	(99)
第 20 章	2 方向に主鉄筋を有する無梁版	(101)
第 92 條	設計細目	(101)
第 93 條	計算方法	(102)
第 21 章	柱	(105)
第 1 節	設計細目	(105)
第 94 條	帯鉄筋柱	(105)
第 95 條	螺旋鉄筋柱	(108)
第 2 節	外 力	(110)
第 96 條	外 力	(110)
第 3 節	應 力	(112)
第 97 條	帯鉄筋柱	(112)
第 98 條	螺旋鉄筋柱	(113)
第 99 條	長 柱	(117)
第 100 條	偏心軸方向荷重を受くる柱	(118)

日本標準規格

ポルトランドセメント (JES 第 28 號 A4)	(121)
高 爐 セ メ ン ト (JES 第 29 號 A5)	(126)
コンクリート骨材試験篩 (JES 第 238 號 A12)	(130)
金屬材料抗張試験片 (JES 第 1 號 B1)	(132)
一般構造用壓延鋼材 (JES 第 430 號 G56)	(135)
壓延鋼材ノ寸法及重量ノ公差 (JES 第 24 號 G13)	(140)
標 準 棒 鋼 (JES 第 25 號 G14)	(142)